

参考資料 2

(過去の議事等概要)

第1回 「中海会議」【概要】

日 時：平成22年4月22日（木）
13：50～16：40
場 所：米子コンベンションセンター
2階 国際会議室

【議事】（中海会議設置要綱案）

○近藤安来市長

安来市としてもこれまで諸問題について国交省、島根県に要望してきた、特に高潮、内水について。家屋への浸水、農地の冠水等の被害が発生しており、県ともいろいろ協議している。この会議でもぜひ「中海沿岸の内水対策に関すること」を協議検討内容に加えてほしい。安来市のみならず、ほとんどの市町が高潮、あるいは内水対策の課題を持っている。

○鞆嶋東出雲町長

東出雲町も同様で、意宇川下流の護岸の高潮問題等、安来市と同じ問題があるのでよろしくお願ひしたい。

○野坂米子市長

平成21年1月の中海護岸等整備促進協議会鳥取県部会の際に内水対策についても国として積極的に対応していく旨伺っている。（1）の護岸等の整備に関する事の中に含まれてくると理解。

○野坂米子市長

大橋川の改修事業については、松江市、斐伊川水系の住民の方の気持ちを勘案し、水質問題、農地排水不良等に関する問題等、未解決の問題もあったがあえて同意。この会議の開催には大変感謝。

○松浦松江市長

（2）の水質の話で、何となくこのニュアンスから言うと、ウォッチングをする、モニタリングをして状況を監視する役割のように感じるが、せっかく中海会議を設置したのだから、むしろ水質の改善ということに部会なりを設けてぜひ積極的に対策を講じるための組織にしてほしい。予算の話も出てくるかもしれないが、それはまた別途負担金なりで対応することとして、今まで「水質改善対策協議会」というのがあったが、その「改善」は消さないで「水質改善」を前向きにとらえる組織に。

○野坂米子市長

設置要綱の条項の中では「水質及び流動などに関する事」となっているが、当然「改善」も入ってくるだろう。我々も当然だが、松江市長さんと同様、改善も取り扱っていただかなければいけない。

○平井鳥取県知事

私も全く同感。先般12月19日に協定締結した際も、これから未来に向けて水質改善をしていくという目標を持つと話をしているところ。単なるモニタリングで終わることのないようにすべき。お金の問題などは、それこそ国も県も市町村も集まった場で効率的にきちんとした議論をして、お互いの役割分担を明確にすればよい。

○平井鳥取県知事

勝山局長の中国四国農政局も、ぜひ水質などの問題について、もちろん後背の農業の問題もあるし、今まで干拓事業や淡水化事業でお世話になり、またそれに関連した農林水産事業もあるので、部会にご参加を。

【報告・協議】（中海及び境水道の堤防、護岸等の整備）

○平井鳥取県知事

確認だが、要は大橋川の拡幅が行われて、流量が増す前に下流域の方の湖岸堤の整備が済んで、安全が保たれるという計画になっているという理解でよいか。

○吉田中国地方整備局河川部長

狭窄部の拡幅、それから堤防整備、それと並行する形で中海・境水道の整備を進めていくということで、やはり一番過去に被害の出ている、中海の高潮被害が出ている箇所については、下流

部の拡幅工事を行う前にそこは少なくとも完了させるという今現在の工程を考えている。

【報告・協議】(中海の水質及び流動)

○野坂米子市長

第5期の中海に係る湖沼水質保全計画は、米子市も協力していく。と同時に、今回この中海会議を設置する前のやりとりで、中海の水質や流動に係る測定箇所を必要に応じて追加すること、また、両県知事の合意の文章では「中海全域の水質に継続的な変化が確認されるなど、新たな水質改善策を講じる必要が生じたと判断される場合は、大海崎堤の開削も含め幅広く適切な対策を協議検討していく」ということであり、今後ともよろしく願いたい。

○松浦松江市長

水質改善では、宍道湖の場合も国、県、市町でも同じようなことをやっており、できればそれらを1つにしたような組織で有効に対策が打てるようなことを。水質改善は、これが原因だとすぐには返ってこない非常に難しいものだが、国、県、市のそれぞれの英知を結集していく必要がある。中海の場合、この中海会議でぜひ総合的な対策を打ってほしい。それぞれの役割分担はあるが、まず全体として総合的、統一的な対策を打ち出していく形で。

○平井鳥取県知事

大海崎堤の開削なども、これからのモニタリングの状況によっては検討をということであるが、これは12月19日の溝口知事との合意もあるので、基本方針に基づいてやっていくという方向性で議論をしていきたい。

松江市長からの意見に同感。改善に向けて一定の方向性を国、県、市町村の枠を乗り越えて取り組んでいくという、他地域にはない分権型のやり方を今やろうとしていると考えている。

○溝口島根県知事

国、県、市、一緒になって水質の対策を考えていく。早く部会を立ち上げて、具体的に水質の状況の把握をどうしていくか、3者でどう協力していくか、それでどういう対策が必要なのかをこれからやっていただく。

○平井鳥取県知事

メンバーについて、この農地の排水問題とか、これまでの堤防の問題も含めた淡水化や干拓の事業もあるので、勝山局長(農政局)のところにも議論に加わっていただきたい。もともと堤防が設置されていることも、水質に影響している可能性も今後ある。そこはこれからモニタリングをしながらやっていかなければいけないが、農政関係の方も議論の場に加わっていただければという趣旨。それぞれの事業には当然、制限もあるという前提で。

○勝山中国四国農政局長

農水省が持っている対策事業や、位置づけや役割、河川管理者である国交省とはまた役割も違うだろうが、そこは打ち合わせしながら検討させていただく。

○平山中国地方整備局出雲河川事務所長

測定点の追加については、森山堤の開削を受け「森山橋地点」でその開削部を測定できる体制をとっている。まだ開削後1年たっていないが、流向流速等の状況を見ながら、河川管理者の立場として必要があれば今後観測地点の追加も検討していきたい。現時点は状況を見ているところ。

【報告・協議】(中海沿岸農地の排水不良)

○野坂米子市長

農地排水不良の問題については大変重要な問題だと認識。地元住民の間では、その原因は干拓堤防の影響により地下水位が上昇し、排水不良の被害が多くなったなどの意見が根強い。対策の一つとしては、圃場の地盤を客土によるかさ上げが一番よいかと考えている。県から一つの方法として地元提案いただいた工事残土などを利用した土地改良事業について、地元関係者は、排水不良対策のモデル圃場として受入れに向けて具体的に動いていると承知。ただ、今後の工事残土の有無等の情報が必要なので、よろしく願いたい。

○鹿田鳥取県農林水産部長

昨年地元の方で33数戸の農家が新たに土地改良事業に取り組みたいという話があったもの。残土利用というのは有効な手段で他に好事例もあるが、残土がいつごろ出るかは時期未定で

あり連携して向かう必要あり。排水不良地は100ヘクタールぐらいの規模。モデル地区は約3.3ヘクタール。これを県の方の単独事業と米子市との負担で、少しでも農家の負担を減らしていく方向で検討中。

○福田中国地方整備局長

湖岸堤の事業によってどういう残土が出てくるのかは、これから具体的に個別の調整をするので、その結果出てくる残土の情報提供についてはやぶさかでない。そのほか関係する事業で、コストの問題もあるだろうが、流用できるものの有無をそういう視点で情報整理していきたい。

【報告・協議】(中海の利活用)

○溝口島根県知事

県ができるもの、やらなければいけないもの、或いは地元でやった方がいいもの、いろいろ案づくり、アイデア出しを一緒に考えるのは良い。その過程で民間の意見を聞き、また参加もあり得る。観光面は山陰文化観光圏が具体的に進捗中。観光以外の面でもワイズユースという広い分野でいろんな協力が具体的に進むように。

○平井鳥取県知事

国、県、市町の境なく一緒に中海をきれいにしていく行動を起こすべき。その意味で、圏域をまたぐ人たちに共通の言葉、モットーなどを形成するのも一つのアイデア。循環型の利用が可能な海藻の農業関係への利用や、サイクリングロード、船を浮かべて、今、地元の人たちが安来と米子の間を往来したり、松江と境港の間に船を通すということをやっているが、そうした観光利用も含めたワイズユースを圏域として進めていく具体的プロジェクトとして考えるのも良い。

○松浦松江市長

例えば私たちが小さいころからなれ親しんだ食べ物、アカガイなどの水産物を一つの共通目標にして、水産振興を共通の課題・目標として掲げていただくとありがたい。アカガイなどは県境は全く関係ないし、しかもここに住んでいる人たちは、昔から同じこの地域の食べ物ということでなれ親しんでいる。それはアカガイに限らず中海七珍、十珍などでもいい。

○田中航空自衛隊美保基地司令

航空自衛隊は美保基地ということで中海に面している。(野鳥が航空機とぶつかって民航機あたりが欠航することも年何回、また航空燃料を大量に持っているので、災害発生時の中海への流入防止など、対策をとっている。)この会議で得た情報をもとに、しっかりやっていきたい。

○徳丸中国四国地方環境事務所長

水質モニタリングや改善については、私どもも参画をしており、しっかり意見・助言を、場合によっては支援をさせていただくことを検討したい。ワイズユースの事業、生物多様性の課題に対しても、COP10、第10回締約国会議でも一つの流れであった「民間企業の参画」について、鳥取、島根の地元企業の参画を検討されてはどうか。

【まとめ】

○平井鳥取県知事

水産の振興を両県もぜひやろうということはおかねて合意。例えばアカガイないしサルボウの漁場再生のプロジェクトは緒についたばかり。確実に生息の可能性は強まっていると思われるが、生物多様性が中海で取り戻せるようにやっていきたい。水産の方で別途持っている協議の場とも連携して、目標設定してやっていけばよい。

今後の進め方については、例えば年に1回の開催は始まる前の合意だが、具体的に次回をどうするかということは、例えば予算編成がなされる過程でぜひ開くべきだとか、あるいは事情が大きく変わるようなデータが出てきたとか、状況を見ながら臨機応変に、幹事会にも諮りながら決めていく。

今日のご意見で共通していたのは、新しい協議の場ができたことへの歓迎の言葉。今までは、それぞれ市町村なりで悩みながら内水対策をやったり、水質改善も、それぞれが場当たりのとは申さないが、それぞれの考え方でやるわけであり、コーディネートが十分できていなかった。ただ、大橋川の事業が進むなど事態が動き始めており、ぜひこの中海会議を活用してきれいな中海にしていこうという決意がいただけたと思っている。

第2回 中海会議【概要】

日時 平成23年8月23日(火)

14:00～15:50

場所 くにびきメッセ 3F 国際会議場

開会

【議事1】(要綱改正(案))説明：島根県政策企画局長

資料により説明。(H23.8.1：松江市、東出雲町合併に伴う構成員の変更)

○島根県知事(議長)

特に意見はないようなので、中海会議の要綱改正(案)については、ご了解いただいたこととする。

【議事2】(ア.湖岸堤部会の報告)説明：出雲河川事務所長

資料により説明。

<質疑>

○米子市長

米子市の旗ヶ崎地区について、今年度、国土交通省さんと水門設置の詳細設計協議を進めることとなっている。この箇所は、内水排除についても苦慮しているところ。堤内地については管理者である米子市の役割であることは十分認識しているが、今後の協議にあわせ、国土交通省さんのお知恵やご支援をお願いしたい。

○出雲河川事務所長

外側の湖岸堤をつくる話と内水処理については、一体的に検討していかなければならないものと認識。引き続き話をさせていただきたい。

○松江市長

馬潟港周辺は護岸が低く、台風6号と高潮がかさなって、工場の浸水・冠水被害が発生した。管理者の問題もあるようだが、調査を行い、善処方をお願いしたい。

○出雲河川事務所長

現地状況については、既に確認している。国交省管理の堤防と港湾管理のところもあり、この秋の台風シーズンの対応も含め、対策等について関係者と相談させていただきたい。

○島根県知事

港湾管理となると、(島根)県も関係してくる。今後、国・県・松江市でよく調整、相談するようになりたい。

○境港市長

先般、斐伊川水系の治水同盟会で要望活動をおこなった。H24年度予算については、仄聞するところかなりのシーリングがかかると聞いているが、整備の進捗が遅れがでないようお願いしたい。

○中国地方整備局長

H24 予算については、現在作業レベル。震災対応等々で全般的には非常に厳しい状況と聞いている。しかしながら、この中海の事業は河川整備計画にも位置づけられており、地元の関連事業も一体的に進めていく必要があると認識している。実務的にきちんと整理して、要求していきたい。

○鳥取県知事

1 点目は、湖岸堤整備の順序の問題。整備の順序については、大橋川の拡幅により流量が増える前に、下流側の湖岸堤がきちんと整備されていることが、鳥取県側との約束であることをご留意いただきたい。

2 点目は、新しい議論だが東日本大震災を受けての津波の問題。鳥取県側では津波の対策のためのシミュレーションをすでにはじめている。情報はオープンにしたいと考えており、今後の計画や整備手法についてもご配慮いただきたい。

○中国地方整備局長

1点目の整備の手順については、十分に認識しているところ。湖岸堤の整備を先行し、そして下流側から上流側に向けて整備するという大きなフローチャートに、知事の発言の意味合いも含まれていると考えている。

2点目の津波の問題も非常に重要。未解明な点も多いが、国交省でも津波の河川遡上といった専門的な検討も行っており、県の情報も取り入れて、常に最新の検討を行っていくという姿勢。

○島根県知事

引き続き情報の密なる交換と、それに応じた対応をそれぞれ一緒になってやっていく。

【議事2】(イ. 水質流動部会の報告) 説明：島根県環境生活部長、環境政策課長

資料により説明。

<質 疑>

○米子市長

米子市としては、長期的に流動データが水質にどのように影響を与えるのかを把握するため、大海崎観測地点の常設化、米子湾への観測地点の新設をお願いしたい。

○事務局

部会の方でも、ご意見を踏まえて検討中。今後、調査の目的や手法などを整理したうえで検討を進めていく。

○中国地方整備局長

流向・流速の観測は、中海全体の流動構造を明らかにするために行っているもの。時々刻々測ることにより、後々の計算再現に必要な各種係数をおさえていくことができるようになる。

現時点では、洪水時等のデータがとれておらず、もう少し、継続観測が必要と思っているところ。

全体の流動データがひと通りとれれば、観測の役割を終えるとの考えもあるが、部会において専門家に、十分な調査が行われているのか、さらに充実すべきなのかどうか意見を聴き、部会で皆さんと検討していきたい。

○島根県知事

部会で専門家の意見なども聞いてどうするか検討していただく。その過程で中海会議に相談する必要がある、それぞれのところで検討してもらおうということでしょうか。

○鳥取県知事

現在の観測の強化、ぜひ推進をお願いしたい。環境面に関して、米子湾とか松江に近い側とか、数値の悪いところあり、そうしたところの対策をどうとっていくのか、分析を徹底していく意味でも観測態勢を強化していただきたい。中海全体としては、いろいろ取り組みをしている中で、環境基準値の達成が図り切れておらず、その原因とか分析をしっかりとやって、戦略的に対策を進めることが必要。

また、厄介なのは、中海を掘込んで、弓ヶ浜とか崎津に農地造成地をつくったため、そのかなり深い部分で水の交換のむずかしいところ生まれているかも知れないということをかねてから指摘されているが、原因がよくわかっていない。いろいろな情報分析を進めて、浅場造成や生態系を利用した水質改善なども含め、戦略的に取り組んで行く必要がある。

○松江市長

観測の強化をぜひやってもらいたい。宍道湖の例でも下水道整備がほぼ100%になったのに、改善効果が見られない結果が出てきているが、その理由についてまだ分析ができていないところ。農業や自然系の影響等むずかしい面もあるかと思うが、専門家を活用して、どうしていけばいいかということスケジュール的なものを考えながら、目に見える形でやってもらいたい。

○中国地方整備局長

物理的な水の交換に加え、酸素濃度がどうなっているかなど、水の質的な変化が再現できるような計算モデルができると、対策に対する比較評価が可能となり理想だと思う。流入負荷の半分以上は自然系ということもあり、非常に難しい点もある。ただ、問題点をきちんと理解するためにも、観測の強化と専門家を入れたモデル構築は一つの課題。今後、農水省や環境省さんのお知恵もお借りしたい。

○中国四国環境事務所長

水質保全関係については、水質流動部会に参画させていただいており、この中で国交省さんなり、県と一緒にすることができるのであれば議論・協力していきたい。

○島根県知事

環境省全体として水質の基準をつくったり、専門家もいらっしゃるでしょうからこういう会議を通じて官民の専門家に参加していただいたり、意見を聞いたりして、部会でよく検討し、中海会議ともよく相談をしていただきということではないか。

【議事2】（ウ. 農地排水不良WG）説明：米子市経済部農林課長

資料により説明。

<質 疑>

○米子市長

農地の排水不良は米子市にとって大変重要な課題。対策として、客土による嵩上げがいいのではと考えているところ。国・県、市の関係機関等、工事残土情報の提供等にご協力いただきたい。

○中国地方整備局長

公共事業の中では、切り盛りバランスをとってあまり残土が発生しないケースが多いが、もし出れば、情報を協議会やワーキングに提供していきたい。

○島根県知事

必要な残土の情報提供等、関係の機関や、中海会議にお知らせいただきたい。

【議事2】（エ. 中海の利活用WG）説明：鳥取県企画部長

資料により説明。

<質 疑>

○鳥取県知事

こういう環境に配慮した食べ物を、提案のようなエシカルフードとして、両県共同事業としてやったらどうかと思う。また、提案に大賛成であるが、これからの住民との協働の取り組みのシンボリックなものとして、住民に分かり易い形で中海憲章の制定を検討してはどうか。

他に、ワイズユースに絡んで、島根県や松江市の皆様と、中海圏域一体となった国際的な意味も含めた観光誘客に共同で取り組んでいきたい。例えば、既に就航している DBS クルーズフェリーや、新たな上海からの定期チャーター便乗り入れなどの取り組みにご協力をお願いしたい。

○島根県知事

利活用については、引き続きいろいろな方法や民間の方と一緒にやる必要があると思うので、よろしくをお願いしたい。

【議事3】（1. 水産資源の復活の取り組み）説明：島根県農林水産部水産課長

資料により説明。

○島根県知事

島根県の方でも中海の漁業資源復活に対して、調査や今回のような研究事業もやっている。引き続き、鳥取県や漁業者とも協力しながらやっていきたいと思うので、よろしくをお願いしたい。

【議事3】（2. 中海市長会の取り組みについて）説明：米子市企画部企画課長

資料により説明。

○鳥取県知事

市長会で具体的なプロジェクトが動いている事は大歓迎。県レベルでも協調してやっていきたい。例えば、鳥取県でも電気自動車をレンタカーとして提供しており、併せて運用すればより効果的だと思う。

【まとめ】

○鳥根県知事

- ・護岸の整備については、地元のご意見などを引き続きよくお聞きし、状況もよく把握して、国交省ともよく調整をしながら更に早く前進するよう、協議会としても一緒になってやっていきたい。
- ・水質流動については、継続的にやっていくと同時に、専門家の意見をよく聞きながら、観測箇所の拡大等、部会でよくご検討いただきたい。
- ・排水不良については、残土情報の提供等連携をよくしていきたい。
- ・中海の利活用については、さまざまなアイデアをワーキンググループでよく検討すると同時に、早く実現できるもの、予算措置を必要とするものなど、今後の議論の進行にあわせ、国、県、市でよく連絡をしていただくこと。
- ・サルボウや市長会の取り組み等も、利活用の一部を構成するものであり、中海会議と一緒にやっていきたい。

○鳥取県知事

両県一致し、国の関係機関にもご協力をいただきながら、住民の皆さんと美しい中海をつくりあげていきたい。

○鳥根県知事

次回、第3回の中海会議については、適当な時期に鳥取県でお願いしたい。

閉会

第3回中海会議【概要】

H24.8.28 国際ファミリープラザ（米子市）

議事（部会・ワーキングからの報告事項）

（1）中海湖岸堤等整備に係る調整会議（説明者：国土交通省出雲河川事務所）

【意見等】

■米子市長

- ・内水排除は、基本的には堤内地を管理する米子市であるということは十分認識しているところだが、今後、詳細設計に向けて協議をする中で、国土交通省さんのお知恵をいただき、また、強制排除のポンプ等の設置についてもお願いしたい。

■松江市長

- ・大橋川の改修事業が停滞することなく進捗するように、予算措置の面等々、よろしく願い申し上げます。
- ・護岸堤の整備で、国道（野原地区の国道431号）の整備とあわせて堤防の整備が進められているが、この整備計画の中には、この護岸堤の整備の中で、短期あるいは短・中期で整備箇所を示された箇所が相当数あるので、引き続き事業の進捗についてお願い申し上げます。

■安来市長

- ・安来湾の中の南十神地区は、年に二、三回床下浸水する町内があり、我々は内水対策の予算を最優先して立てて、内水対策をしようと思うが、ここの湖岸から、いわゆる高潮のときに、逆に河川へ外水が流れ込んでいる。
- ・ここを早く直していただかないと、我々のポンプで内水を中海に流せないということがあるので、これを最優先していただきたい。

■鳥取県知事

- ・上下流の拡幅を優先するということが、今までの議論としては、国と島根県、鳥取県の間で合意事項として、下流の方の中海の堤防高をしっかりとすると、この後、流量の拡大を図ることになっているので、その辺を強く申し上げて確認をとらせていただきたい。

■中国地方整備局長

- ・平井知事がおっしゃった、下流を優先的にやって、その後上流側という話は、毎回承っている話で、認識は全くそのとおり。
- ・今後もその方針に従って実施をしていきたい。
- ・松江市長が言われた大橋川の話、湖岸堤の話については、予算要求の中でしっかり要求するべく最後の努力をしているところなので、いろんな意味での御支援をよろしくお願いいたします。

■出雲河川事務所長

- ・平井知事からのご指摘について、拡幅は、当然下流側の中海の方の対策をしてからという意味なので、しっかりとその旨申し上げておきたい。
- ・米子市長からの旗ヶ崎の関係は、内水対策と外水対策は一体的に考えなければいけない。
- ・現在、具体的な計算等をしており、具体的な結果が出たら、対策等について改めて協議をさせていただきます。
- ・安来の南十神の箇所については、短・中期箇所という形で整理されているが、下流の方の施設

管理者である港湾の方との協議等もあるので、引き続きその辺の調整を進めさせていただければと考えているところ。

(2) 中海の水質及び流動会議（説明者：鳥取県生活環境部水・大気環境課）

【意見等】

■松江市長

- ・東出雲町の錦浜の沿岸などでも浅場造成をやっているが、水質改善だけではなくて、水産資源についての検証みたいなことを続けていただいて、非常に効果があるということであれば、ぜひそれをこれからも進めてもらいたい。
- ・湧水の話は、これがどういう効果があるものなのか、まだはっきりしたことは出ていないが、ぜひこれは研究していただいて、例えばアカガイとかアサリとか、そういった水産資源の養殖なりに活用できるのではないかと思いますので、調査を続けてもらえると大変ありがたい。

■米子市長

- ・今年度事業として新たに米子湾の流動等を調査し、その後、既存観測データと関連づけて流動解析を行って水質浄化対策の考察を行うということだが、流動と水質の関係は非常に複雑であるということ踏まえると、米子湾の流動等の調査は、現地観測と短期の連続観測に加えて、観測地点の常設化も必要なのではないか。
- ・完全に壊れたために出雲河川事務所で設置場所も含めて抜本的な対応を御検討されていると伺っている大海崎観測地点の流向・流速計についても、これを機にあわせて常設化の御検討をお願いしたい。
- ・森山堤の開削や西部承水路の撤去による効果について、評価及び検証は非常に難しく、期間も要することは承知しているが、今後の議論を深める上でも可能な限り中間報告的なものをお示しただけでないか。

■境港市長

- ・中海の流域に係る下水道整備について、鳥取県の助成措置が平成17年の時点での認可区域で終了するという事をお聞きしている。
- ・私どもの下水道計画は、終末処理場が美保湾側の一番米子の方にあり、そういった立地条件から、中海側の方の整備が一番最後のこれからの課題になっている。
- ・今、17年時点の下水道の認可区域、境水道沿いが大体終わり、これから中海の流域の渡町、外江町に入るといった時期に、流域に係る補助を打ち切るというのは、補助制度を当初つくった趣旨に全く相反するのではないか。
- ・これから流域の整備に一生懸命かかるわけなので、ぜひ助成制度を継続していただきたい。

■鳥取県知事

- ・境港市長の件については、また調査させていただき、検討させていただきたい。基本的には中海の水質保全、流入負荷を減らすという観点から事業化されてきているので、ぜひ調査をさせていただきたい。
- ・湧水については、データを見ると、透明度が急速に改善しているナンバー9とかナンバー5とかがあるが、関係するものなのかどうか、確認をさせていただきたい。
- ・大海崎、森山堤の開削について、先ほどの話だと、反時計回りの流れは実現できていない、行ったり来たりの流れになっているが、全体のデータとして見ると開削の効果は認められるということでもよかったのかどうか。

- ・全りんのデータについて、急速に今上がってきているところがナンバー1、ナンバー2、ナンバー5とあるが、これらは、大橋川の下流にあるように見えるが、このあたりの解析というのはあるのかどうか。

■鳥取県水・大気環境課長

- ・本庄工区の湧水については、私どもももう少し知見が要と考えているところ。
- ・平井知事の、弓浜半島の辺の透明度の改善と今の湧水の影響という点は、そのあたりのことについては、直接そのところが関連しているかどうかまではまだはっきりしていない。
- ・全りんが急激に上がっているという件は、やはりこれは表層のデータなので、多分この全りんにはプランクトンの数値がこれらに影響しているのではないかなと考えているところ。
- ・本庄工区については、中海のその他の区域と同じように底層の塩化物濃度が上がってきて、他の中海の区域と同じような状況になっており、貧酸素等による溶出も幾らか影響しているものかと考えているところ。
- ・森山堤の効果については、CODとかの有機物の負荷量だけを見れば、島根県側のここ5年ほど改善傾向が見られるのも森山堤開削の効果かなと思えるところだが、やはり、りんの方でも御説明申し上げたように、もう少し窒素やりんとの挙動も見てみないとそのあたりがはっきりしないという状況であり、もう少しこれらの挙動を見ながら判断をしてまいりたい。

■中国地方整備局長

- ・松江市長からの浅場造成事業について、私どもとしても、平成22年9月の河川整備計画に基づいて実施をしてきており、効果があるということであれば前向きに取り組んでまいりたい。
- ・大海崎の観測地点の常設化については、大海崎の方は現在、大橋川の改修に伴う水質シミュレーションの実施とか、森山堤開削に関する河川管理上の知見を得るために設けてり、常設化ということまでは言い切れないが、これはしばらく続くと思う。
- ・米子湾入口のものについては、河川管理上私どもがやるようなうまい理屈があれば大変ありがたいが、今年度行われるシミュレーション等々の結果を見て、誰が実施するかということも含めて、後日判断するようなことでどうか。

■出雲河川事務所長

- ・大海崎の観測器は、9月復旧の形で進めている。

■鳥取県知事

- ・水質については、PDCAサイクルを回すためのモニタリングをしている。
- ・今回、いろんな知見があるが、よく分析をしてその水質改善の実が上がるように、国交省の施策とか、両県の施策とか、いろいろ関係するものがあるかと思うが、ぜひ有機的な対策づくりをしていただきたい。

(3) 中海沿岸農地排水不良ワーキンググループ (説明者：米子市経済部農林課)

【意見等】

特になし

(4) 中海の利活用に関するワーキンググループ (説明者：島根県政策企画局)

※併せて、「中海水産資源生産力回復調査の計画」について、鳥取県水産試験場から報告。

【意見等】

■島根県知事

- ・まだまだ初期の段階だが、これをさらにこの会議で進めていくことが大事なことはないか。
- ・検討中のアイデアも、マリンスポーツとかトライアスロン、いろんなことが提案されており、引き続きいろんな検討をお願いしたい。
- ・また、民間の方々などもこういう検討に加わっていただいて、幅広くおやりになることを期待する。

■鳥取県知事

- ・溝口知事の御指摘は大賛成。
- ・ぜひ中海を起爆剤にして、新しい観光、あるいは食文化につなげていただければ。

■松江市長

- ・藻については、うまく循環させていく方法を考えていかなければいけない。
- ・藻を刈るためには相当のエネルギー、機械も要るので、そういったことについて行政としてどういうふうに対応していくか。
- ・あまり行政がそれをやり過ぎると、結局その先のところで詰まってしまうということがあるので、民間の皆さん方とどういうふうにしこのところを連携していくかということ、本当はこれが一番難しいところだが、ぜひ一緒になって検討していければ。
- ・随分昔から中海ライドという、中海のあたりを自転車で周遊するようなイベントをやっているが、なかなかPRが行き届かなくて、200名ぐらいの参加者は地元の皆さん方がほとんど。
- ・すばらしい景観でもあるし、大変サイクリングには適しているので、全国から集まってもらいたい。
- ・そうすると、さきほどのポータルサイトみたいなところを活用して、全国に発信してもらうこともぜひ検討してもらいたい。

■島根県政策企画局長

- ・藻の活用は、コストの問題は非常に大きな問題で、今実際にNPOの団体等にもお願いしており、この辺をどうやって削減できるか、あるいは販路をどうして拡大していくかということ、引き続き民間と一緒に検討してまいりたい。
- ・またサイクリングの方も、引き続きワーキングで協力して検討してまいりたい。